

読み終(いた)て故郷を離れていく家族や友人に送りましょう



卒業、また一つ人生の年輪が拡がる……。

この子たちが大きく育ち将来姶良町を  
背負う日は……。



# 広報あいら

No. 200号 昭和57年3月31日発行

特集号

## ……おもな内容……

- 特集 その時あなたは  
200号までのあゆみと行政  
社会のうごき  
町民と歩いた26年8カ月 ..... 2  
広報紙を見ての感想 ..... 8~9  
編集者の四苦八苦 ..... 10~11  
思い出のアルバム ..... 12~13  
町合同金婚式 ..... 14  
コンピューターを自己導入 ..... 15  
56年度事業 ..... 16

## 町の人口動態

(昭和57年3月31日発行)

[ ( ) 内は前月比 ]

世帯数	11,007戸 (+ 4戸)
人 口	15,921人 (-17人)
男	17,635人 (-46人)
女	33,556人 (-63人)
計	

発行 鹿児島県姶良町  
編集庶務課  
〒899-54 電 09956 ⑥3111  
鹿児島県姶良郡姶良町宮島町25番地

# 町民と歩いた26年8ヵ月

## 「広報あいら」200号達成

ご提言・ご援助を基に

行政広報の中心は町民のかたがた



始良町長 岩根 清春

### 発刊当時の思い出

行政と町民をつなぐパイプ役  
初代始良町長 水流清高



選択を誤らないことが大事であろう

うと思います。

発刊の際には、季節感や会議の

模様、地域の行事、新しい事業等

盛り込む努力、勉強を続けてまい

る所存でございます。

私たちの「広報あいら」が二〇

〇号を迎えるました。

昭和三十年発刊と聞きますから

まさに始良町の町づくりの歴史と

ともに歩いてきた広報紙と言える

と思います。

編集に携わった職員の苦労は多

大であったことでしょう。

この「広報あいら」が町民のみ

なさまがたに、どのように「読ま

れ」「理解され」「活用され」て

いるかが、うかがわれるよう思

います。

情報化時代にふさわしい資料の

提供、読みやすい広報紙作成に努

めてまいりたいと思っております

ので、町民のみなさまがたのご意

見を、どしどしあ寄せいただけれ

ば幸いに思います。

何の仕事においてもですが「あ

る、行政広報紙であることを願つ

ております。

昭和三十年一月、山田・帖佐・

重富の三ヵ町村が合併して発足し

た始良町は、赤字財政の建て直し

を主眼として出発したのです。

このことは行政だけでなく、各

種団体との連携が必要ですので、各

町民のみなさまがたは各関係団体

が発行する「たより」と合せて勉

強していただければ幸いと存じま

す。

町の広報紙から実態をつかみ、

実行が生まれ、町発展の一助にな

ることを願ってやみません。

日進月歩の社会情勢に対応する

ことを常に念頭に置いております

ので、行政への暖かいご提言、ご

援助をお願いするしらいでござい

ります。

最後に「広報あいら」がいつま

でも町民のみなさまがたに愛され

る、行政広報紙であることを願つ

ております。

農政では、毎日現金を得る農業

を主眼として、将来性を考え長い

伝統をもつて(あります)や木炭に代

わる産業として、議会、農業委員

部(あたりべ)として、ますます

精進されることをお祈りします。

会、農協等のご協力を得て「町ぐるみ養鶏」に取り組んだのです。

その他 国民健康保険の全町実

施、土地区画整理事業、役場新庁舎の新築移転等の重要な課題が次々に解決され、今日の始良町の土台が築かれてきたのです。

これは、町民のかたがたの良識と英知により、小異を捨てて大同につく協力の結果であります。

しかし、これには町民と行政との間のパイプ役として、町民の理解を深めるため、広報紙の果たした役割は極めて大きいものがありました。

広報紙の編集を担当した歴代の担当者は、本務多忙にもかかわらず、行政の縁の下の力持ちの役を

こなされました。

今日は、生々流転し発展してゆく町の歴史のひとコマひとコマの記録でもある町政に関する情報サービスには、こと欠かない状況にまで成長しています。

これらが将来、始良町五十年史百年史でも編纂されるとき、最も貴重な資料として取り扱われますので、広報紙の保存には十分配慮されますようお願いします。

また、紙面の充実に、より一層の努力をされ始良町の歴史の語り

が語られることが期待されます。

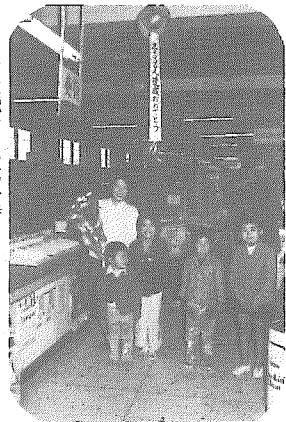


# そ の 時 あ な た は

昭和40年から 昭和57年3月まで



▲町民との対話も真剣に  
自治会長さんたちとの対話風景



昭和52年  
町民あげての祝福を  
▼町政飛やくの第一歩

昭和52年

昭和52年

●ワタシ作る人ボク食べる人

- 町木「やまとぐる」町花「ザンカ」きまる
- 町合同金婚式（二二八組参加）始まる
- 北山生活改善センター完成
- 始良町商工会館完成
- 木津志区立幼稚学級閉鎖
- 大規模住宅団地始良ニュータウン建設開始
- 帖佐幼稚園開設
- 全国町村会から「始良町」が全国表彰受く
- 始良町の人口が三万人突破
- 船津公園造成着手
- 昭和53年
- 町観光繪ハガキ完成（八枚一组）
- 町勤労者体育センター重富に完成
- 道場（町老人福祉センター隣に）完成
- 南宮島・重富第二都市区画整理完成
- 北山に食品加工施設完成
- 昭和54年
- 上名地区にNHKの協力で共同受信施設完成
- 新設小学校建設に伴う「始良校区」誕生
- 帖佐グラウンド完成
- 重富地区公民館完成
- 帖佐幼稚園・重富中屋体完成
- は場整備事業（面工事）10年がかりで
- 四一六ヘクタールが整備される
- 昭和55年
- 第一回農業祭始まる
- 「部落」を「自治会」に「部落公民館長」を「自治会長」に呼び名を変更
- 行政連絡員誕生
- 始良小学校が新設開校
- 建昌小屋体・始良小プール完成
- 昭和56年
- 帖佐小百十周年記念式典
- 外国人と直接通話可能な帖佐北分局開局
- 町上水道第三次拡張工事始まる、総工費十八億円
- 昭和57年
- 重富保育所改築
- 役場本庁冷暖房完備

- 巨人重王貞治アーロンの記録を抜く
- 通算七五六号の本塁打を打つ（国民栄誉賞）
- 有珠山噴火（北海道）
- 昭和53年
- 福岡市異状渴水による水道給水制限
- 世界一の長寿国に
- 植村直己氏が単独北極点到達
- 昭和52年
- の証明
- ピラニア軍団
- 黒いピーナッツ・偏差値
- 限りなく……に近い
- とんでいる
- ピラニア軍団
- スーパー・カーサ
- タタリジヤー
- マイコン
- カラオケ
- 円高差益
- ルーツ
- 昭和53年
- 東京サミット開催
- 三義銀行強盗殺人監禁事件
- 昭和54年
- モスクワオリンピック開催
- 日米西独など不参加
- 長島監督辞任
- 王・野村ら相次いで現役引退
- 足りり
- 家庭内暴力
- 窓ぎわ族
- 不確実性の時代
- 嫌煙権
- ナンチャッテ
- アーヴー
- 昭和54年
- インベーダーゲーム
- テクノポップス
- 天中殺
- 口裂け女
- シェイプアップ
- 地方の時代
- ジョギング
- 昭和55年
- ピカピカの一年生
- カラスの勝手でしょう
- 昭和56年
- そなんですよ○○さん
- ナヌルナヨ
- ナヌルナヨ
- 昭和57年
- 東京ニュージャパンホテル大火
- 日航機羽田沖に墜落

▲役場本庁冷暖房完備

多くの町民の方々から募集した原稿を掲載しました。多くの方々がたから貴重な投稿がありましたが、紙面の都合で四人の方々の投稿を掲載させていただきます。

一人でも多くの町民の方々の声を掲載したいのです

## 町民のことば

この欄は、町民の方々から募集した原稿を掲載しました。多くの方々がたから貴重な投稿がありましたが、紙面の都合で四人の方々の投稿を掲載させていただきます。

## 山間部の開発を!

貴重な伝統文化を大切に

農業

福岡平  
(木津志)



私たちも隠居生活を送る者にまで  
町の広報紙「広報あいら」が配布  
されますので愛読しております。

広報紙により、町議会のありさま  
から役場の人事異動、町の予算  
行政組織、各地区でのあらゆる行  
事等知らされますので楽しく読ん  
でいます。

「町民報」から「町政だより」  
「広報あいら」と変りつつ二〇〇  
号を重ねられ、ますます内容の充  
実を図られ進展しつつあることに  
深く感謝いたします。

始良町も含併してから、はや三  
十年近くなり、市制を目指し年々  
人口も激増しつつあることは、町

民として喜ばしいことあります。  
その後、合併十周年記念式には  
木津志からは「山武士踊り」を披  
露して祝福しましたが、月日の経  
つのは早いものだと思います。

町の発展に伴い、これから山間  
地域の農道・林道の開設、護岸工  
事等に、より一層広報の目と行政  
の力を入れていただき少しでも  
山間部の農業が省力化による経営  
ができるよう希望します。

広報紙を読むたびに農政の記事  
が縮少されている感じを受けます。  
以前「町民報」「町政だより」  
等の農政中心とまではいかなくとも  
農業に関する記事が一つでも多く  
掲載されることを楽しみにして  
います。

始良町も合併してから、はや三  
年を重ねられ、ますます内容の充  
実を図られ進展しつつあることに  
深く感謝いたします。

南北に細長く横たわる、私達の  
川ありで景勝の地も数多くあります。  
しかし、私達の住む山村には過  
疎化の波が大きく押し寄せている  
のを感じます。

始良町、山あり、海あり、また、  
山間部の農業が省力化による経営  
の力を入れていただき少しでも  
山間部の農業が省力化による経営  
ができるよう希望します。

広報紙を読むたびに農政の記事  
が縮少されている感じを受けます。  
以前「町民報」「町政だより」  
等の農政中心とまではいかなくとも  
農業に関する記事が一つでも多く  
掲載されることを楽しみにして  
います。

始良町も合併してから、はや三  
年を重ねられ、ますます内容の充  
実を図られ進展しつつあることに  
深く感謝いたします。

始良町も合併してから、はや三  
年を重ねられ、ますます内容の充  
実を図られ進展しつつあることに  
深く感謝いたします。

## 校正の重要さを十分に！ とじて大切に保管



湯之上 清蔵  
(口山花)

町の広報紙の過去に  
ついて別に挿話等はあ  
りませんが、思い出を  
顧みながら述べてみま  
す。

私の手元にとり込んで  
あるのは、昭和四十  
七年一月十五日の「五  
一號から途中二三

号抜けていますが、そ  
のなかで忘れもしないの  
中で余談ですがいつかの「広報  
あいら」の記事中に「一陽來復」を  
間続けています。

さて、余談ですがいつかの「広報  
あいら」の記事中に「一陽來復」を  
間続けています。

この度、山田の旧役場跡に地区  
公民館が設置されるのを機会に、  
地区のみんなが利用できる勉強の  
場、いよいよ場が欲しいものです。  
また、旧山田村は商店  
も繁栄した村であったと聞かれて  
います。現在では、地域で働け  
る工場等もなく、若い人から年輩  
のかたまで、朝から他町村に向  
けマイクロバスで働きに行かれま  
す。

近くで働く工場を誘致できれ  
ば若い人達も郷土に残って、昔の

ように小中学校の児童、生徒数が  
増加し、活気ある住みよい山田が  
できるのではないかでしょう。

広報紙を愛読しながら痛感して  
います。

## 無職



湯之上 清蔵  
(口山花)

「一陽來福」、また「勇往邁進」  
を「勇往邁進」と印刷されており  
明らかに誤字、あて字がありま  
したので日本語の乱れと校正の大切  
さを電話で連絡した記憶がよみが  
えってきます。いかなる印刷物に  
も言えることですが、校正の大切  
さを十分に心得て立派な広報紙を

作成してください。

昭和四十八年十一月、有吉佐和  
子作「恍惚の人、老いは死よりも  
残酷なり」を主に、老人の生き甲  
斐について、パンフレットを作  
成し、民生委員・老人クラブの役  
員の方々に配布しました。

福祉の仕事は、すでに退任して  
いますが老年痴呆しないよう、常  
に頭の体操をしています。

始良町の住民となり七年になります。町の人口は七年前二万五千人余りだったと記憶しています。しかし、前回の広報紙で三万三千人を超し、単独市制も夢でない記事を読み我が家居住する町の発展ぶりにただ驚くばかりでした。

広報紙の発行も二百号になるそうで、その歴史の重さに感動を覚えます。

記事内容や紙面構成など工夫され、効果的に写真や図表など取り入れ読みやすくなっています。

例えば、町財政事情の公表では思いつたスペースを視覚的にとり、興味深く見ることができます。予算総額、予算項目の構成比など、日頃、町民税は高いと思っていましたが、町歳入予算の約四分の一にすぎないというのには驚きました。

行政改革とやらで諸経費の見

始良町の住民となり七年になります。町の人口は七年前二万五千人余りだったと記憶しています。しかし、前回の広報紙で三万三千人を超し、単独市制も夢でない記事を読み我が家居住する町の発展ぶりにただ驚くばかりでした。

広報紙の発行も二百号になるそうで、その歴史の重さに感動を覚えます。

記事内容や紙面構成など工夫され、効果的に写真や図表など取り入れ読みやすくなっています。

始良町の住民となり七年になります。町の人口は七年前二万五千人余りだったと記憶しています。しかし、前回の広報紙で三万三千人を超し、単独市制も夢でない記事を読み我が家居住する町の発展ぶりにただ驚くばかりでした。



公務員

山下興亞

(西之妻)

## 地域連帯感の向上を 人間愛の劇的な広報を望む

直しや検討もなされているのですが、眞に町民の生活向上に結びつくものなら、大胆な施政は当然だろうと思いました。町行政に関することだけではなく、町民に親しまれる紙面づくりに、努力されていることがよくわかります。

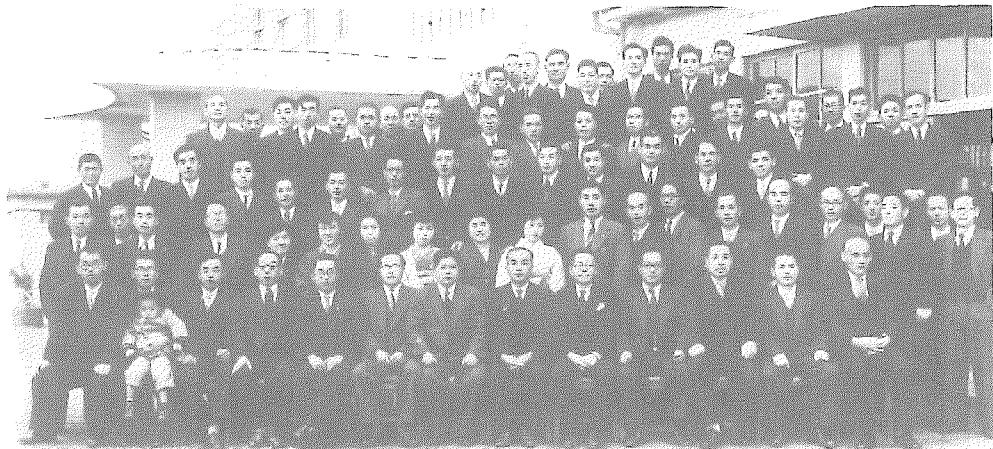
生活に密着した多様な話題、地域の行事、名所旧跡、民話などを紹介し、地域の連帯感の向上に努めてほしいものです。

また、「人間愛あふれる豊かで活力のあるみどりの町」実現のために、一層充実した広報活動を望みます。

町政に対する素朴な要望や疑問、今日の教育活動に関する地域の問題、意欲的に活動している団体を紹介、町民意志の交流の場など、人間愛の作り出す劇的なひとコマを広報し、ふるさとの味を出してほしいものです。

思い出の  
アルバム

# 合併当時の議員の みなさんと役場職員



# 編集者の四苦八苦

昭和三十一年一月一日  
三カ町村合併の活気的な事業として「姶良町」が誕生しました。

以来二十一年という長い歳月は姶良町のイメージをすっかり変え今や鹿児島市の衛星都市として県下一人口急増のおちに発展したのです。

「いの団」と変貌する町の様子を刻々的確に田頭のみなさんに伝達する広報紙も発刊以来

一〇〇号を迎えました。

一〇〇号達成までには、歴代十人の編集者が昼夜を問わず丹精こめた広報紙を残しての歴史の一助となしてきました。

また広報紙の名前も「田民報」

「町政だより」「広報あいら」と変わってきた一方、紙型もタブロイド判からB4判など、趣向をこらして、見やすい、読みやすい広報紙へと努めてきています。

そこで、広報の重要性を認識しながら、日夜努力してきた歴代編集者の横顔と当時を振り返る意味での「思い出すの四苦八苦」をご紹介します。

初代・8代  
**田代道信**

通算 一年一ヶ月  
現在 町中央公民館長  
兼社会教育課長



5代・7代  
**吉井忠夫**

通算 四年四ヶ月  
現在 退職後上人庄在住



10代  
**西脇功**

通算 一年二ヶ月  
現在 耕地課長



13代  
**伊集院博隆**

通算 一年四ヶ月  
現在 保健衛生課



2代・4代  
**三田川三郎**

通算 二年十ヶ月  
現在 退職後住吉在住



6代  
**篠田克巳**

通算 一年五ヶ月  
現在 議会事務局長



11代  
**小出水正和**

通算 一年八ヶ月  
現在 企画課電算対策係長



14代  
**梅木逸郎**

通算 五年一ヶ月  
現在 麻務課文書広報係長



3代  
**西脇功**

通算 五ヶ月  
現在 企画課



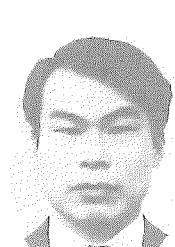
9代  
**大村一男**

通算 一年一ヶ月  
現在 退職後堅野在住



12代  
**樋田敏行**

通算 九ヶ月  
現在 保健衛生課



15代(現)  
**米倉徳博**

通算 八ヶ月  
現在 麻務課文書広報係長



## 25年ぶりにペンをとって

田代道信  
創刊号完成  
初代・8代編集者  
始良町が合併して発足し  
た昭和三十年、町と住民との  
パイプ役として、また、  
新しい町をPRする必要  
から広報紙を発行すること  
となり、当企画課勤務の  
私にそのお鉢がまわってき  
た。

創刊号となると町長・議  
長の挨拶は当然として、始  
良町の紹介記事を欠かさず  
にゆかず、まだ町内の実  
情を十分に把握していない

2代・4代編集者  
三月田悟  
私が広報紙の編集に携わ  
ったのは、三カ町村が合併  
して始良町が誕生した直後  
で、社会の経済状態も今日  
とは格段の差があった時で  
した。

ザラ紙・ペン先一本・鉛  
筆一本から配給制で、町財  
政は苦しく上司は日夜財政  
再建のために努力を重ねて  
いました。

このような状況を一人で  
受けた原稿がある。スペースの関  
係もあってそのまま全部を掲載で  
きるわけではない。一方、私のほ  
うから原稿を依頼すると締め切り  
日を過ぎても提出がない。出てき  
た文章は難しくて長い、これを読み  
やすく、わかりやすい表現にしよ  
う。

多くの町民のみなさんに知つて  
もらえるかどうか、広報編集マン  
として一晩中眠れず思案と苦しみ  
算は文具費を割愛しての発刊であ  
つたが、経費のことよりもまず「  
紙面をどのようにして埋めるか」  
に苦心し、紙面の体裁など考える  
余裕がなかったことを記憶してい  
ます。

たしか三十一年の十月号の編集  
で、決算額を図表で広報しよう  
と思いつたが、解説ができず、  
なんとか紙面を満たす原稿をつく  
りあげ、校正・印刷も終え「いざ  
出来ばえ」と見ると紙面は文字  
ばかり、「はたして町民のかたがた  
が読んでくださるだろうか」と思  
いました。

吉井忠夫  
5代・7代編集者  
編集当時の思い出は、幾  
多の事件、事故に振り回さ  
れていた思いがします。  
三十六年十月、今の役場  
庁舎が完成し、待望の新庁  
舎内で事務が始まりました。  
当時は水流清高町長で、  
その頃の役場付近は都市計  
画事業の最中であり、家は  
余り建っていない時代でした。  
この祝賀式典の最中に  
鹿屋からの自衛隊機二機に  
よる花束投下が行われまし  
た。花束投下後、後続の一  
機が高压線に触れ、炎上し

たことや連載マンガを組み入れ  
たことで、町長と私に「貴重な紙  
面だ、もっと有効な記事を載せろ」  
と忠告を受けたこと等も、きのう  
のように思われます。

私は広報紙への愛着心はいつも  
でも続くことでしょう。

## 四苦八苦談義

始良町が合併して発足し  
た昭和三十年、町と住民との  
パイプ役として、また、  
新しい町をPRする必要  
から広報紙を発行すること  
となり、当企画課勤務の  
私にそのお鉢がまわってき  
た。

各課から資料を集めたり、古い郷  
土誌や合併資料を参考にまとめあ  
げ、ようやく「郷土概観」の一文  
を掲載することができた。

それで企画、取材、整備、レイア  
ウト、校正、発送とするのだから  
大変な仕事だった。

各課から広報掲載の申し入れを  
受けた原稿がある。スペースの関  
係もあってそのまま全部を掲載で  
きるわけではない。一方、私のほ  
うから原稿を依頼すると締め切り  
日を過ぎても提出がない。出てき  
た文章は難しくて長い、これを読み  
やすく、わかりやすい表現にしよ  
う。

翌年四月には、松原海岸で六人  
の中学生が、イカダあそびを行  
いながら海で遊んでいたのですが、  
一人は岸に泳ぎついだのですが、残りの五人は  
とうとう遺体もあがらない悲しい  
結果に陥りました。

私はこのことを思い浮か

うことなど、今となってはなつか  
しい。

その後、四十一年に二度目の広  
報担当となり、当県の広報課に  
おられた松原の松下実さんのす  
めで、自治大学の広報研修に参加  
させていただいて「さあやるぞ」と  
張り切ったなら異動になつた。

当時は、電話も少なく、府用車  
もない頃で、ほとんど自転車で出  
向いて取材したが、町内の事情が  
よくわかり、人との触れ合いや、  
多くの行事に顔を出す機会に恵ま  
れて、苦しい中にもやり甲斐があ  
る仕事と頑張ったものだった。

## なつかしい出来ごとが脳裏に

吉井忠夫  
5代・7代編集者

て、そのまま島に突っ込み二人の  
乗員が死亡されました。

また四十年十月には町村合併十  
周年記念行事が、現在の西公園で  
町をあげて盛大に行われました。

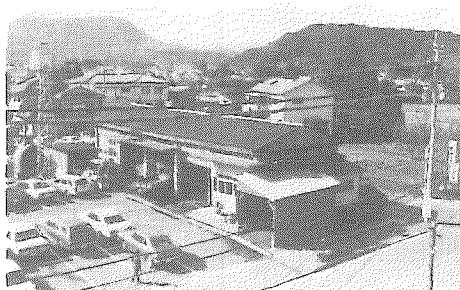
各種団体、部落等から芸能舞  
踊などが繰り出され、一万余りの  
人で盛況に終ったことを思い浮か  
ばれます。

翌年四月には、松原海岸で六人  
の中学生が、イカダあそびを行  
いながら海で遊んでいたのですが、  
一人は岸に泳ぎついだのですが、残りの五人は  
とうとう遺体もあがらない悲しい  
結果に陥りました。

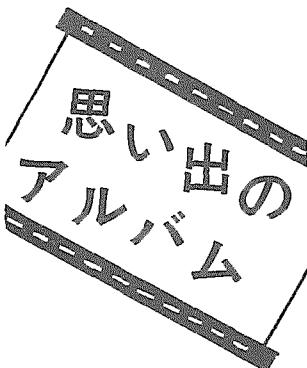
私はこのことを思い浮か

ばれます。

私はこのことを思い浮か



役場庁舎屋上から  
今と昔



町民大運動会（昭和34年）  
覚えていらっしゃいますか？



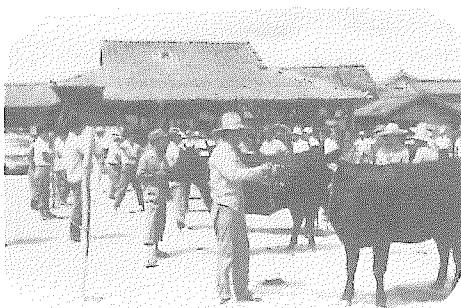
町制10周年記念（成美校区の棒踊り）



防砂堤のない重富海水浴場



のど自慢参加者集合！



家畜市場での畜産品評会



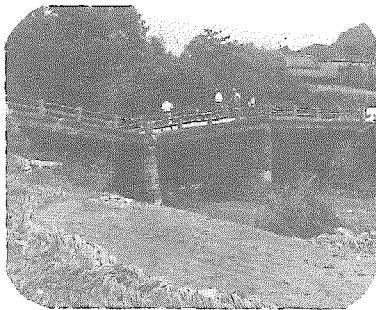
豪雨による浸水



地域でのスポーツ熱高まる（帖佐中）



始良鶲卵全国に普及



豪雨による内山田橋沈下



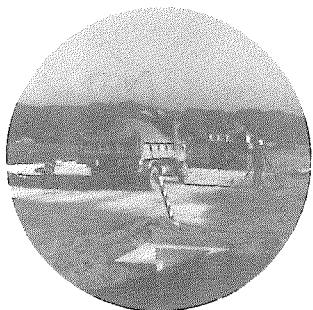
成人式（農協大ホール）



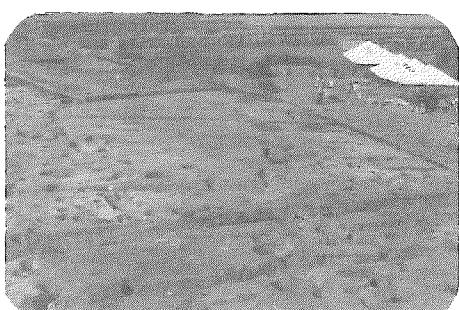
学校での工作風景



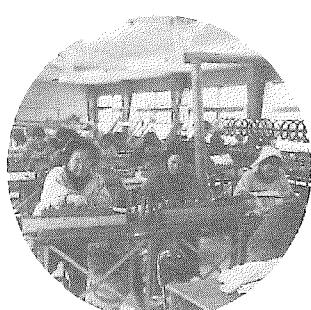
馬踊り／いや、牛踊り



九州縦貫自動車道建設現場



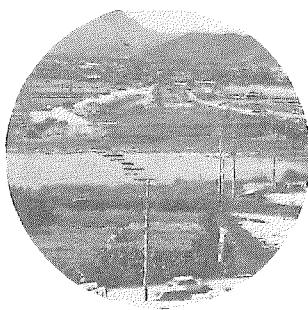
西之妻の小瀬戸遺跡



紹センターでの作業風景



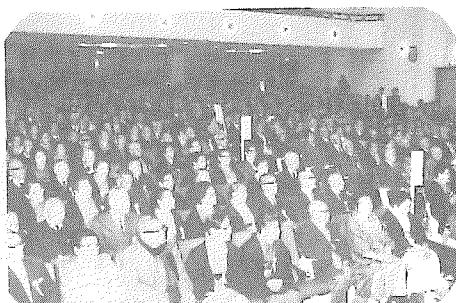
養蚕技術の普及を

始良バイパス建設中（47年）  
十日町付近（手前加治木町）

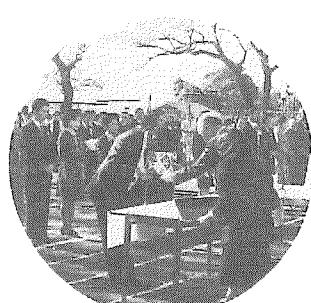
スーパーやなぎ前



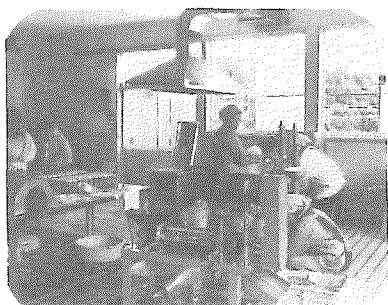
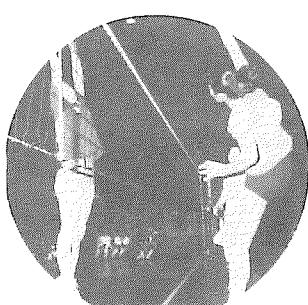
老人福祉センター落成



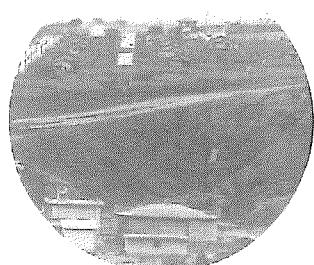
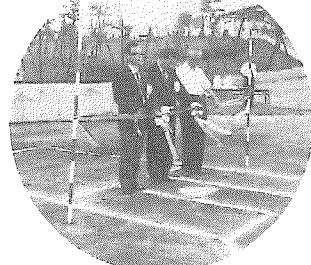
町合同金婚式229組



町内で働く者の激励大会

過疎地でのよりどころ  
北山生活改善センター完成勤労者体育センター落成  
記念バレー大会

福祉の充実を（福祉運動会）

始良ニュータウン建設中  
大規模宅地造成始まる組合施行による南宮島  
土地区画整理施行中

ナイター施設完備（テープカット



町内のトピックス

三月三日、町合同金婚式が町老人福祉センターで行われました。これは老人福祉行政の一環として、町単独で他の市町村に先がけ昭和五十一年度より開催しているもので、今年で数えて六回目を迎えた。

今年対象となったのは、昭和六年三月四日から同七年三月三日の間に結婚された夫婦三十四組。

折りしもこの時期は経済不況の人福祉セントラルで行われました。まつだなかで、日本全土が貧困にあえいでいる時代でした。

以来五十年という長い歳月は、若かった二人を良きおじいちゃんになりましたが、どの顔にも“激動の昭和”的歴史を作り、生き抜いてきた自信と誇りが見受けられました。

岩根清春町長が「五十年の長き

三月三日、町合同金婚式が町老人福祉センターで行われました。まつだなかで、日本全土が貧困にあえいでいる時代でした。

以来五十年という長い歳月は、若かった二人を良きおじいちゃんになりましたが、どの顔にも“激動の昭和”的歴史を作り、生き抜いてきた自信と誇りが見受けられました。

岩根清春町長が「五十年の長き

## 祝 町合同金婚式催される

共に歩いた50年＝町内34組

は一生忘れません。“おまえ百まで、ワシヤ九十九まで”的心意気で長生きします」とお礼のことばを述べました。

また、夫婦生活五十年を祝い、満喫しました。



一本の根からなんと同時に十一本の竹の子が…。堂山自治会の農業志渡岡千秋さんなどが自宅前の竹林（約六千平方メートル）で農協へ出荷するための竹の子採取をしていたときに見つけたもので、約一時間、汗びっしょりになつて掘り出しました。

十一本の中で一番大きいものは約一キロ五百グラムもある堂々たるもので、集まつた近所の人たちも「こんなのは生まれて初めて見た」とワイワイがやがや本を三十本採れるといいますが、一度にこれだけの本数が生え揃うのは極めてまれということ。

町内の多くのかたに見てもらおうと志渡岡さんのご好意により、役場玄関に数日間展示されました。



子供は本来、好奇心が強いうえ寂しがりやすから、そばで顔見知り人が話していれば、近寄ってきて話に加わるうとするものです。

そんな時、「お前には関係ない話だよ」とか、「向こうで遊んでいなさい」などと言つてしまふことがあります。

もちろん、子供には聞かせた

にわたり苦楽をともにしていらした皆さんに今日花が開きました。この日を契機として、ますますお元気で、夫婦揃って仲良くお暮らしください」とお祝いのことばを述べ、これを受けて、金婚式を迎えた夫婦を代表して、白金原自治会の佐野幸雄・薬恵さんご夫婦が一

改めて夫婦の契りを結び合う意味での三三九度の儀式や記念品の贈呈、アトラクション等も行われ、三十四組の老夫婦は初春の一日を満喫しました。

## 会話に参加させマナーやルールを教えよう

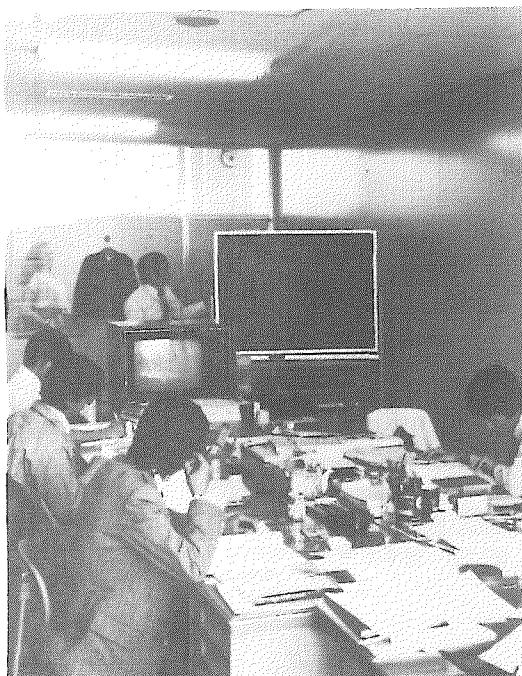
子供は本来、好奇心が強いうえ寂しがりやすから、そばで顔見知り人が話していれば、近寄ってきて話に加わるうとするものです。それとは逆に、だれかが話をしているのを聞くと、話の途中からでも、かまわず自分の方からしゃべり出す子供もあります。このような積極性、進んで話の輪に加わろうとする態度自体はよいのですが、そんな場合にもマナーがあります。関心のある話題だからといって、いきなり会話に割り込んだり、自分の事くないこと、子供の知らない方がいい話題の場合もあります。

しかし、理由も言わずに場をはずされることは仲間はずれにされたという思いを抱かせることがあります。訳を話すのは、まず「母と子の会話」ばかり話すのでは仲間から孤立してしまいます。子供が言葉を覚えたり、言葉のやりとりを始めるといえます。

少しでも多く子供と言葉を交わし会話の雰囲気になじませましよ。また同時に、進んで会話に参加できるよう勇気つけたり他人と話すときのマナーについても教えてやりましょう。

## 住民サービスの向上と事務の近代化を目指し →

一ドサービスや超小型の電卓など私たちの日常生活の中でコンピュータは非常に身近なものとなり、その役割はますます重要なものとなっています。



このようなか、県都・鹿児島市の衛星都市として急激な人口増を続ける本町では、最少の経費で最大の行政効果をあげるため、最新式コンピューターを導入し、来年四月より本稼動を開始します。

導入するのは富士通のFACOM・M1130F。これは一般に「汎用コンピューター」と呼ばれるもので、事務処理能力に優れ、高度な科学技術計算もできる用

途の広いもの。

従来はカタカナでか印字処理できなかつたものが、漢字・ひらがなで処理でき、各種証明書などが格段に判読しやすいものです。

町は昨年七月に企

業のキャッシュカードサービスや超小型の電卓など私たちの日常生活の中でコンピュータは非常に身近なものとなり、その役割はますます重要なものとなっています。

電算機本体は戸舎二階の電算室（旧大會議室）に置き、住民課に端末機二台、税務課に一台、漢字プリンターを両課にそれぞれ一台ずつ配置することになっています。

事務処理のやり方をこれまでの「申請主義」から「通知主義」に切り替えてゆくことになります。例えばこうのことです。

ある自治体の例

（A子さんは夫を亡くして三年が経過しました。ある日、近所の人話で国民年金の死亡一時金が支給されることを知り、役場へもらいに行ったら、すでに二年の時效が過ぎており支払いを受けることができませんでした。）

これは、役所の事務がタテ割りで、各課の連携がうまくいっていない悪例です。

この場合、このA子さんは、夫が死んでされたときに死亡届けという書類を役場の窓口に提出しているわけですから、本来ならこの届

出だけで他のあらゆる権利も受けることができます。

ところがコンピューターは、ある個人に対してその人に関するすべてのデータを記憶しているので、一つのきっかけを与えれば、それに関連することは何でも引き出せることができます。それが「通知主義」と言われる理由です。

つまり、役場から町民へお知らせできるようになるわけです。役場には現在、町民の皆さんの住所・氏名・年齢・所得・固定資産など、町民サービスを行ううえでの基礎的な資料があります。

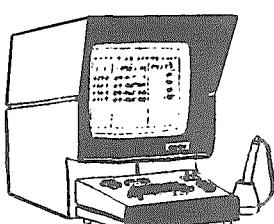
新生「始良丸」は、今、新しく旅立とうとしています。コンピューターの搭載は、乗客へのサービスが飛躍的に改善され、ほか、一番理想的な航路を選ぶに大きな力を發揮するのです。

国によつては、思想等詳しく述べることは、個人の情報を集めることになり、プライバシー（個人の秘密）の問題ともかかわってきます。

コンピューターにこれらを記憶させることは、個人の情報を集めることになり、プライバシー（個人の秘密）の問題ともかかわってきます。

# コンピューターを自己導入

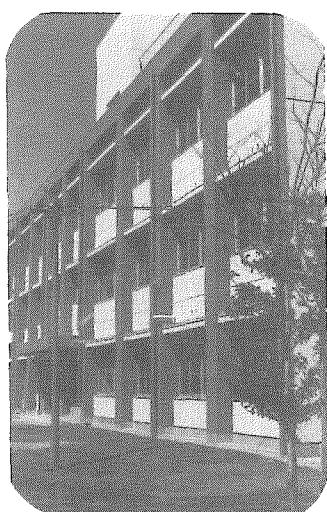
## 来年4月から稼働



### コンピューターとは

コンピューターは、ロケットの打ち上げの制御装置から、身近なもののでは卓上計算機（電子ソロバン）に至るまで、色々な用途、色々な方面に使われています。

コンピューター（電子計算機）とは、大量なものを電子の力で早い時間に計算する機械と直訳ではあります。ある程度の規模の機械になりますと、計算だけでなく、情報を記憶したり、判断したり、印刷もできる総合的な機械となります。つまり、や



面積 1,227m<sup>2</sup>  
総事業費 147,723千円



中層耐火構造四階建  
総事業費 395,850千円  
建設工事32戸 286,070千円  
用地取得 4,166m<sup>2</sup> 109,780千円

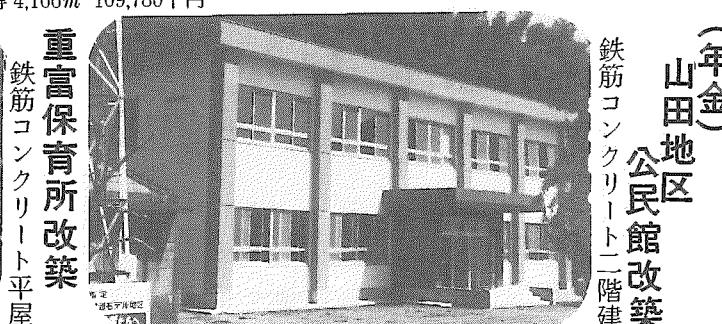
### 西楠元団地公営住宅新築

公共建設事業のなかには、国庫補助金は無論のこと、大蔵省運用部（年金）資金や簡易保険資金を大きな財源として行われるものが多くあります。このような事業として昭和五十六年度は次のような事業が完了しました。

完成写真をご覧ください。

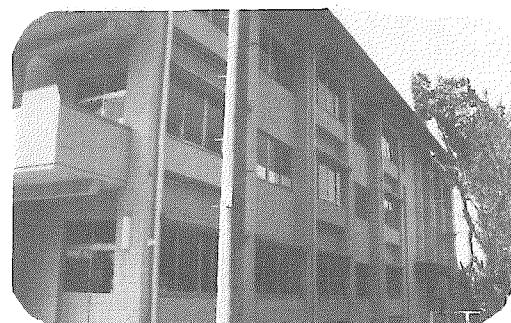


面積 370,11m<sup>2</sup> 総事業費 54,150千円



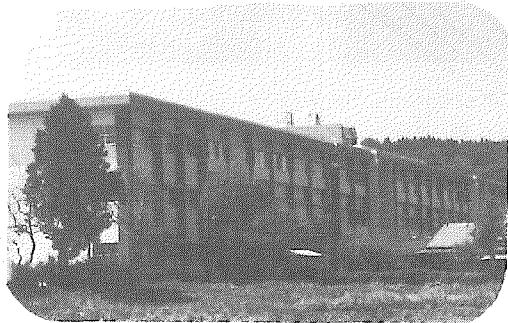
面積 413,8m<sup>2</sup> 総事業費 52,246千円

### (年金) 山田地区 公民館改築



面積 1,076m<sup>2</sup> 総事業費 137,904千円

### (簡保) 帖佐小学校舎増改築



面積 1,058m<sup>2</sup> 総事業費 141,519千円

### 帖佐中学校舎増築

「広報あいら」は、みんなの温かいご支援、ご協力により、今回無事、創刊二〇〇号を発刊することができました。  
編集に当たりお骨折りいただき多くのみなさまに心より感謝いたします。

「広報あいら」の記念すべき第一号が発刊されたのは、昭和三十年に三カ町村合併でニュー姶良町が発足したとき。  
それから四半世紀余の長きにわたり町民のみなさまに愛読され続けています。

係では、これを契機に、また新しい気持ちで、住民参加の住民に親しまれる広報紙。づくりに努力してゆく覚悟です。ご意見・ご要望等ございましたらどうぞしお寄せください。

### 編集後記

町内森自治会の西元英士さんが「町内の子弟の育英資金として活用してください」と、このたび一金、六十六万六千円を寄付されました。町と教育委員会ではこれを育英基金として有意義に活用しています。  
ありがとうございます。

### 育英基金へ寄付